

八戸市都市計画マスタープラン:全体構想について

第6回 八戸市都市計画マスタープラン等策定委員会

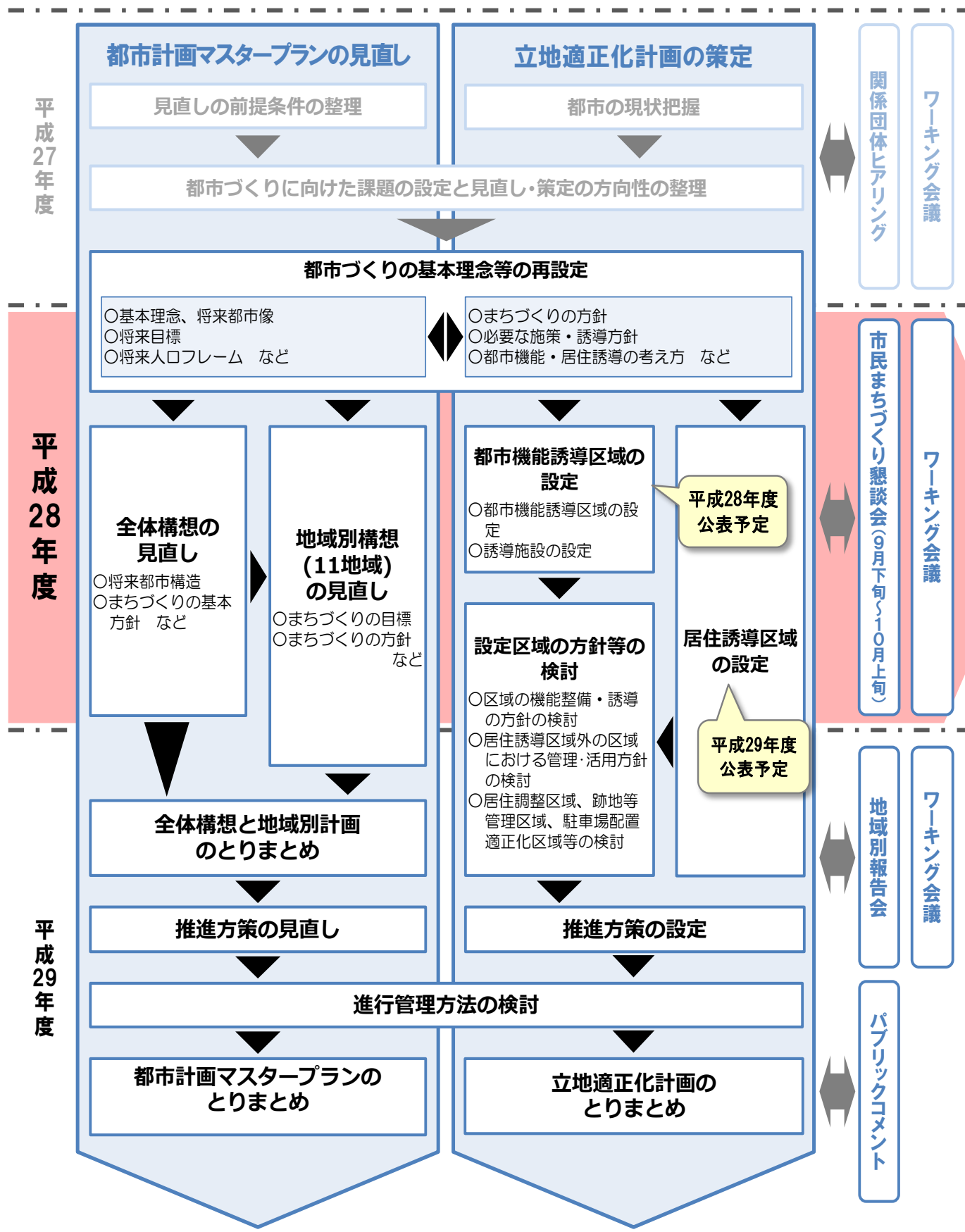
1. 検討スケジュール等	1
1-1 今年度の検討の進め方	1
1-2 策定委員会における検討内容	1
2. 八戸の現状等	2
2-1 八戸市の概況	2
2-2 社会情勢の変化・将来展望等	2
3. 都市計画に求められる課題	2
4. 都市計画の基本理念	3
5. 将来都市像	3
6. 将来都市構造	4
6-1 目指すべき将来都市構造のイメージ	4
6-2 将来都市構造の構築に向けた基本的な考え方	4
6-3 将来都市構造の構成	5
6-4 将来都市構造図	6

八戸市 都市整備部 都市政策課

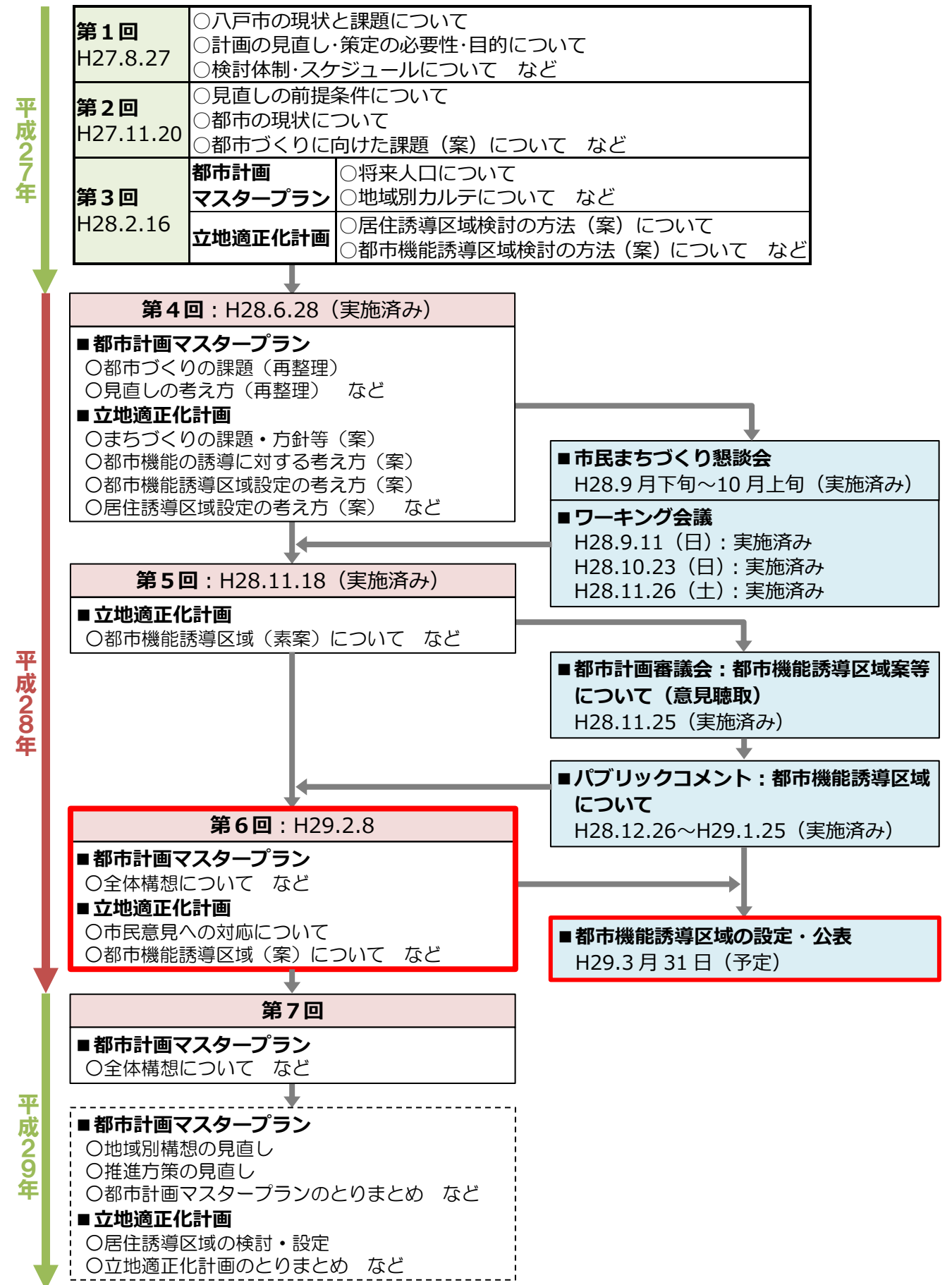
平成 29 年 2 月 8 日

1. 検討スケジュール等

1-1 今年度の検討の進め方



1-2 策定委員会における検討内容



2. 八戸の現状等

2-1 八戸市の概況

【人口】	<p>○総人口の減少と高齢化の進展、生産年齢人口・年少人口の減少 ⇒働き手の減少、消費市場の縮小による産業の低迷 ⇒通勤・通学者の減少による公共交通利用者の減少</p> <p>○通勤・通学での流入者数の減少 ⇒広域の中心都市としての活力の維持・向上が課題</p>	【土地利用】	<p>○市街化区域、特に DID 地区内の人口の減少・人口密度の低下 ⇒都市基盤（インフラ）や生活を支える機能の維持が困難になることが懸念</p> <p>○中心市街地等での顕著な地価下落 ⇒人口減少や都市機能の低下による地価のさらなる下落が懸念</p> <p>○農地・山林の減少と都市的土地利用の進展 ⇒市街地が低密度に拡散していくことが懸念 ⇒農業生産や良好な自然環境への影響が懸念</p>
【産業】	<p>○各産業の生産額等の低迷、担い手の減少 ⇒都市の活力低下が懸念</p> <p>○循環型産業（LNG 等）や IT・テレマーケティング産業の立地などの新たな動き ⇒新たな産業誘致の可能性</p> <p>○観光入込客数の増加 ⇒観光振興によるさらなる交流人口の拡大・にぎわい創出の可能性</p>	【交通】	<p>○新幹線・港湾（商港・工業港・漁港）・高速道路の結節点となっている交通利便性 ⇒産業立地を推進する上での強い優位点となる可能性</p> <p>○公共交通の高い人口カバー率、近年の路線バス利用者の増加 ⇒人口減少にともなう利用者の伸び悩み・減少が懸念</p>

2-2 社会情勢の変化・将来展望等

<p>●人口減少・高齢化のさらなる進展 ⇒自家用車を利用できない・利用しにくい市民が増大する可能性 ⇒子育てしやすい環境づくりの必要性 ⇒居住環境等に対するニーズの変化</p>
<p>●東日本大震災の発生・異常気象による自然災害の頻発 ⇒災害に対する危機意識の高まり ⇒災害に対する「備え」の必要性増大</p>
<p>●地球環境問題の深刻化 ⇒温室効果ガスの排出抑制等（都市の低炭素化）に対する社会的要請 ⇒環境負荷の低いライフスタイルへの転換の必要性</p>
<p>●社会資本の老朽化の顕在化 ⇒都市基盤（インフラ）や公共施設の維持管理・更新コストの増大が懸念</p>
<p>●南郷村との合併 ⇒市域のさらなる拡大 ⇒地域の個性のさらなる多様化（新たな個性・魅力の追加）</p>
<p>●中核市への移行・連携中枢都市圏の形成 ⇒広域の中の中心都市として果たすべき役割の増大 ⇒都市間競争やグローバル化への対応の必要性</p>
<p>●多様化・高度化する市民ニーズ等への対応の必要性 ⇒行政の主導による取り組みの限界 ⇒市民等が主体となった取り組みや活動の活発化</p>

3. 都市計画に求められる課題

➤ 「八戸市の概況」や「社会情勢の変化・将来展望等」を踏まえると、八戸市の都市計画には以下のような課題への対応が求められるものと考えられます。

超高齢社会への対応	本市では今後も高齢化が進展していくことが予測されているため、「ユニバーサルデザイン」の視点にも配慮した、高齢者でも安心・快適に暮らし続けられる都市づくりが求められます。
人口減少の抑制	本市の人口は今後も減少していく予測となっていますが、都市の魅力向上や良好な居住環境・子育て環境の形成を図ることなどにより、住みたい・住み続けたいと思ってもらえる、人口減少の抑制につながる都市づくりが求められます。
産業の活性化	循環型産業などの新たな産業立地の動きや交通利便性などの優位性を活かした産業立地の促進、地域の特性を活かした地場産業や観光の振興による交流人口の拡大など、多様な産業の活性化を促す都市づくりが求められます。
自然環境・農業生産環境との調和	市街地の低密度な拡散を抑制しながら、森林や海岸などの豊かな自然環境や田園地帯の良好な農業生産環境と調和した都市づくりを進めていくことが求められます。
地域の個性の発揮・活用	海、山、川、田園、市街地など、それぞれの地域が持つ独自性・個性を発揮し、自然資源や歴史文化などを有効に活用して都市の活力や魅力の向上につなげていく都市づくりが求められます。
都市としての一体性確保	広大な市域を抱える本市では、道路や公共交通のネットワークの構築・適正な維持管理を行うことなどにより、地域相互の連携を強化し、都市としての一体性を確保していくことが求められます。
都市の防災性強化	東日本大震災や頻発する異常気象などにより災害に対する危機意識が高まっており、震災や豪雨災害・土砂災害など、多様な自然災害に対応できる、災害に強い都市づくりが求められます。
広域の中心都市としての役割	中核市への移行などにともない、八戸圏域の中心都市としての位置づけが一層重要になっていることから、都市の活力や魅力の向上を図ることで、圏域全体をけん引する役割をこれまで以上に果たしていくことが求められます。
環境にやさしい都市構造の構築	世界的に深刻な問題となっている地球温暖化防止に向けて、公共交通の活用による過度な自動車依存からの脱却なども視野に、環境にやさしい都市構造の構築・都市の低炭素化を進めていくことが求められます。
都市経営のコスト抑制	人口減少などにともない財政規模の縮小も懸念されることから、限られた財源の中で都市基盤（インフラ）や公共施設などの社会資本を適正に維持管理しながら、効率的な都市サービスの提供が可能な都市構造を構築することで都市経営のコスト抑制を図っていくことが求められます。
市民によるまちづくりの推進	市民のライフスタイルやまちづくりに対するニーズがますます多様化していく中で、行政や市民個人はもちろんのこと、事業者や NPO なども含めた様々な人たちが参加できる機会を持ち、協働によって都市づくりを進めていくことがこれまで以上に重要になります。

4. 都市計画の基本理念

- ▶ 「都市計画に求められる課題」を包括的に解決していくための都市計画における取り組みの方向性を4つの基本理念としてお示しします。

都市の活力や魅力の向上

本市の持つ優位性や地域の多様な個性などを効果的に活用しながら都市の活力・魅力を高め、広域の中での中心都市としての役割を発揮するとともに、多くの人々が住みたい・訪れたいと感じる都市づくりを進めます。これにより、人口の減少抑制や交流人口の拡大、多様な産業の活性化などを推進します。

安全・安心で暮らしやすい居住環境の形成

市民の日常の生活を支える都市機能や公共交通などの移動手段を維持するとともに、災害に対する安全性を高め、高齢者や子育て世代などをはじめとするすべての世代にとって安全・安心で暮らしやすい、「ユニバーサルデザイン」の視点にも配慮した居住環境の形成を推進します。

都市の効率性や持続性の向上

市街地の人口密度の維持や、様々な都市機能が集積する拠点の形成を図るとともに、公共交通・医療・福祉などの関連分野とも連携することで、市民の生活や経済活動などを支える様々なサービスを効率的に提供することができる、効率性の高い都市構造を構築します。

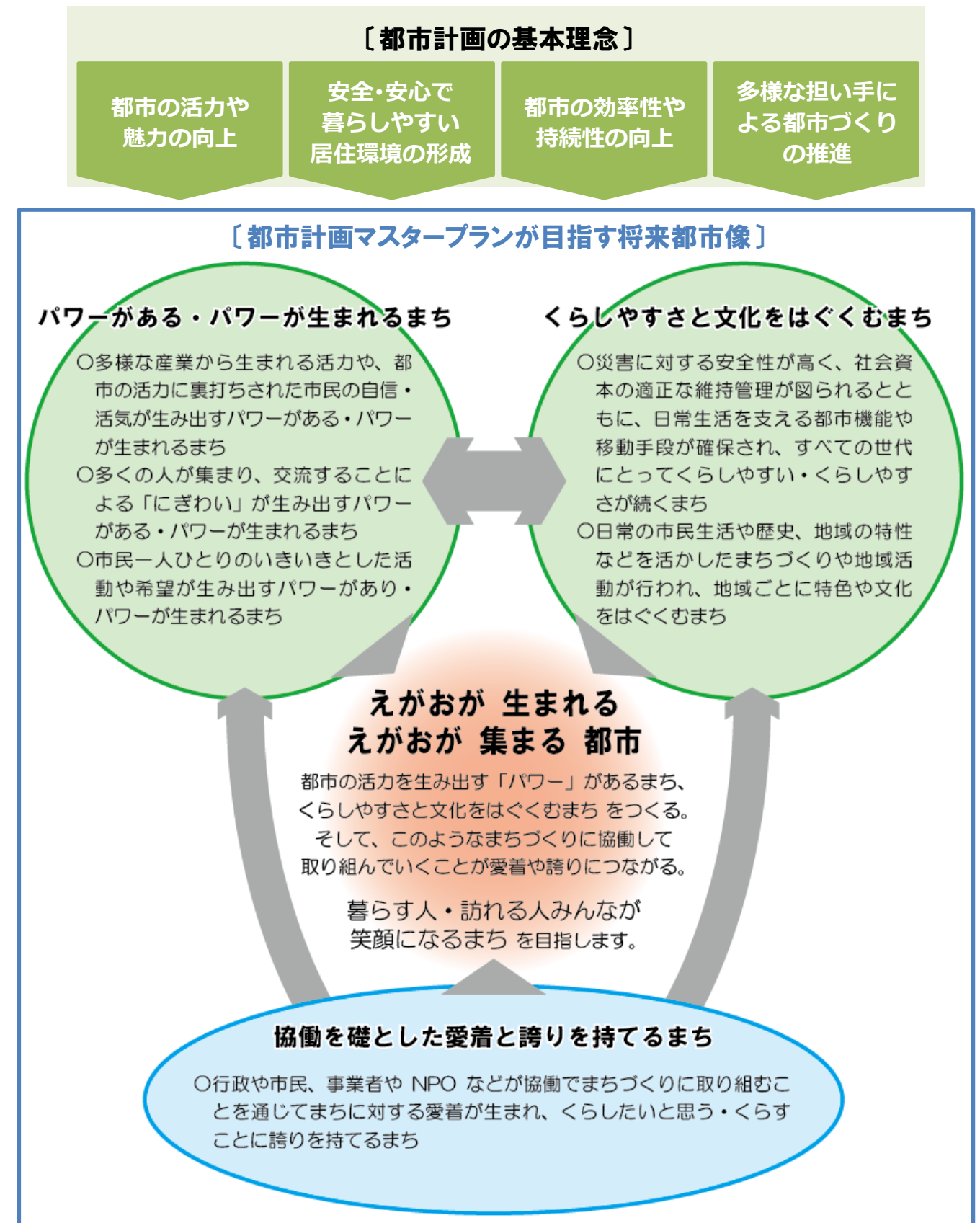
また、市街地の低密度拡散を抑制し、自然環境・農業生産環境と調和した都市づくりを進めるとともに、社会資本の適正な維持管理による都市経営コストの抑制や環境負荷の軽減等を図ることで、都市の持続性を高めます。

多様な担い手による都市づくりの推進

社会状況の大きな変化にともない多様化・高度化している市民のライフスタイルや都市に求められるニーズに対応するため、行政や市民個人はもちろんのこと、事業者やNPOなども含めた多様な担い手が協働しながら、みんなで都市づくりを進めます。

5. 将来都市像

- ▶ 「基本理念」に基づいた取り組みを進めていくことで、以下のような将来都市像の実現を目指します。



6. 将来都市構造

6-1 目指すべき将来都市構造のイメージ

都市活力の向上を図りつつ、
みんなが住みやすい・住み続けられるまちを実現する、

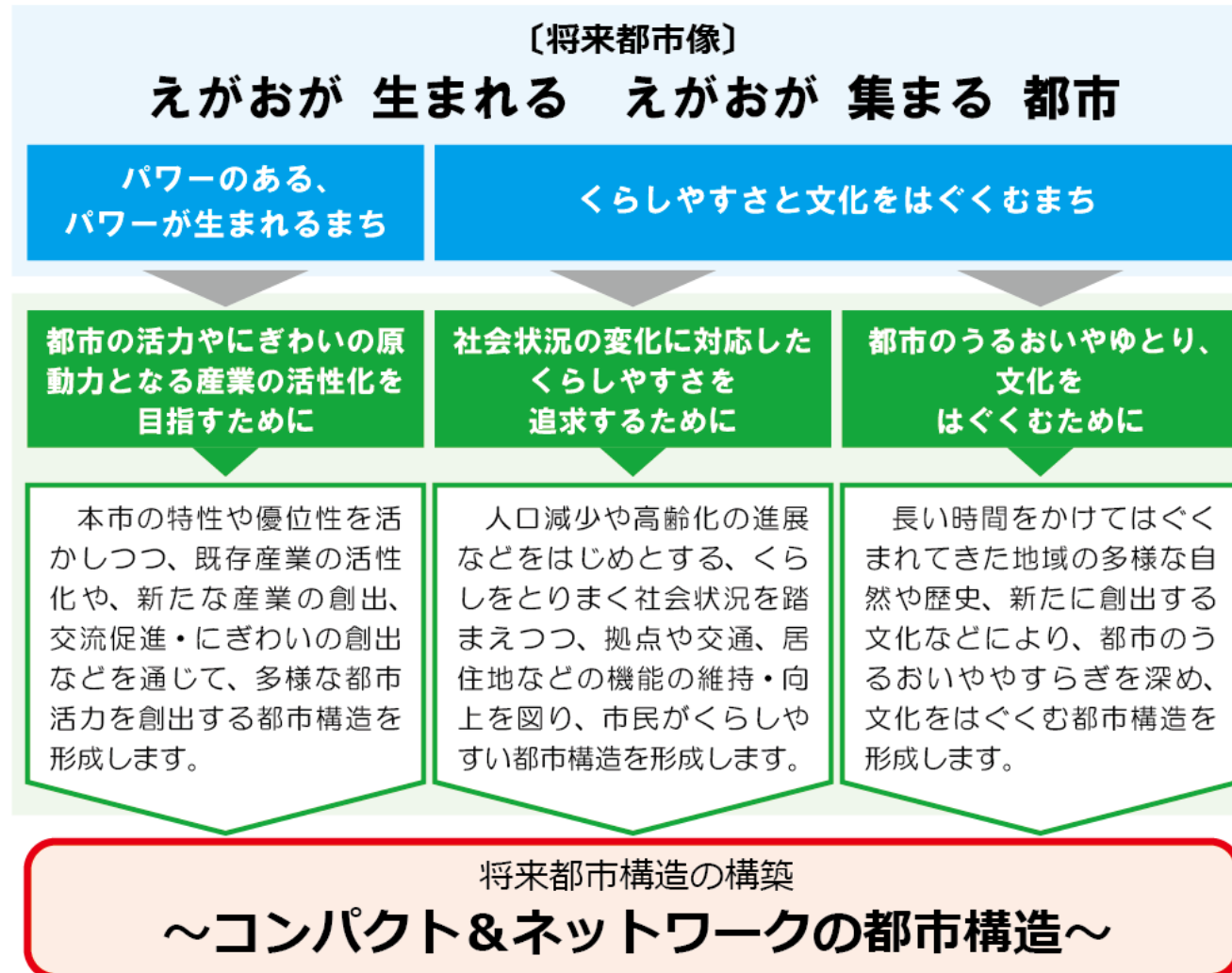
コンパクト＆ネットワークの都市構造

の構築を図ります。

『コンパクト＆ネットワークの都市構造』とは、市街地の拡大を抑制して「コンパクト」な市街地を形成するとともに、市内各所と拠点を結ぶ公共交通などの「ネットワーク」の充実を推進するものです。
これにより、人口が減少する中でも都市活力の維持・向上を図りながら、みんなが住みやすい・住み続けられるまちの実現につなげていきます。

6-2 将来都市構造の構築に向けた基本的な考え方

- 「将来都市像」の実現に向けて、以下の3つの視点から将来都市構造の構築に向けた考え方を整理します。



(1) 都市の活力やにぎわいの原動力となる産業の活性化を目指す都市構造の考え方

本市の特性や優位性を活かしつつ、既存産業の活性化や新たな産業の創出、交流促進・にぎわいの創出などを通じて、多様な都市活力を創出する都市構造を形成します。

都市の活力・にぎわいを創出する拠点の形成	○市内外から公共交通でもアクセスしやすい場所に、多くの人が集い・交流することで、にぎわい・活気を創出する拠点を形成します。 ○また、市内各所に立地する様々な既存産業や新たな産業の活性化、観光交流の促進などを支える都市の活力を創出する多様な拠点を形成します。
産業や交流を支える交通ネットワークの構築	○市内外や広域、さらには全国・世界へとつながる、人や物の円滑な移動を支え、活発な産業活動や交流を促進する交通ネットワークを構築します。

(2) 社会状況の変化に対応したくらしやすさを追求する都市構造の考え方

人口の減少や高齢化の進展などをはじめとする、くらしを取り巻く社会状況の変化を踏まえつつ、効率的で利便性の高い都市・交通サービスの提供や、地域の特性に応じた居住環境の充実などを通じて、市民が暮らしやすい都市構造を形成します。

市民のくらしやすさを支える拠点の形成	○既存の都市機能集積を最大限に活用するとともに、公共交通ネットワークとも連携しながら、市民の様々な外出行動に応じた都市機能が集積し、効率的に都市サービスを提供する拠点を形成します。
地域の特性に応じたくらしのゾーンの形成	○自然環境との調和などにも配慮しながら、地域の特性を活かした快適で魅力あるくらしのゾーンを形成します。
市民の日常生活を支える交通ネットワークの構築	○様々な都市機能が集積する拠点へのアクセスや、拠点間・拠点内の移動のための手段となり、市民の日常生活に必要な移動を支える、鉄道・路線バスなどを中心とした交通ネットワークを構築します。

(3) 都市のうるおいやゆとり、文化をはぐくむ都市構造の考え方

長い時間をかけてはぐくまれてきた地域の多様な自然や歴史、新たに創出する文化などにより、都市のうるおいややすらぎを深め、文化をはぐくむ都市構造を形成します。

市内外の人が集い・交流する拠点の形成	○市内各所に見られる特徴的な水とみどりのそれぞれの特性を活かしながら、市内外から人々が集い、交流する拠点を形成します。
水とみどりのネットワークの構築	○特徴的な水とみどりの空間をつなぎ、市内をめぐるネットワークを構築します。
水とみどりのゾーンの形成	○地域ごとの特性や求められるはたらきを踏まえた、水とみどりの保全や創出・活用を図るゾーンを構築します。

6-3 将来都市構造の構成

▶ 「将来都市構造の構築に向けた基本的な考え方」を踏まえ、土地利用区分・拠点・ネットワークの3つの要素から将来都市構造を構成します。

(1)土地利用区分

都市全体としての開発・保全のバランスや、地域の特色などの視点から、大きく2つの土地利用に区分します。都市的土地利用と自然的土地利用の広がりについては現状を維持し、都市的土地利用では効率的な市街地の形成を図る一方で、自然的土地利用では自然的環境の保全を基本として、土地利用ごとにふさわしい機能性の高い空間形成を図ります。

①都市的土地利用

●心地よく・快適で都市的なくらしやすさの充実を図るとともに、活力やにぎわいを生み出す機能的な都市活動を確保するため、コンパクトで効率的な土地利用を展開します。

②自然的土地利用

●無秩序な開発を抑制し、貴重な自然資源の保全や農林漁業等への産業への活用を図るとともに、豊かな自然的環境に囲まれたゆとりと落ち着きあるくらしやすさを目指した土地利用を展開します。

(2)拠点

都市の活力やにぎわいの創出、市民のくらしやすさの向上、うるおいある都市空間の形成などの視点から、都市や地域の中心、産業や交流の中心となる7種類の拠点を配置します。

①中心拠点・・・中心街地区

●行政機能や広域商業・サービス機能、業務機能、文化・芸術・エンターテインメント機能、レクリエーション機能、IT・テレマーケティング産業などの産業機能等、多様な高次都市機能の集積を図ることで、都市全体や圏域全体の便利で快適な生活を支える都市サービスを効率的に提供するとともに、都市の活力・魅力やにぎわいを生み出す、多くの人が集い・にぎわう拠点を形成します。

②広域機能拠点・・・八戸駅周辺地区、田向地区

●都市全体・広域のくらしやすさを支える高次都市機能のうち、地区の特性に応じた機能の集積を図り、円滑・効率的に都市サービスを提供する拠点を形成します。(中心拠点を補完)

八戸駅周辺地区	新幹線・在来線が乗り入れるターミナル駅があり、公共交通の利便性が高い地区の特性を活かし、観光・交流機能や文化機能などの集積を図ることで、中心拠点を補完するとともに、八戸市や広域の「玄関口」としての役割を担う拠点を形成します。
田向地区	公共交通（路線バス）の利便性が高いことに加え、環状道路により自動車でも市内各所や広域からアクセスしやすい環境が整い、市民病院が立地している地区の特性を活かし、医療・保健・福祉機能などの集積を図ることで、中心拠点を補完するとともに、安心な市民生活を支える拠点を形成します。

③地域生活拠点・・・市内各所

●地域の特性や人口規模などに応じて、地域の生活や地域活動、地域のコミュニティを支える身近で基本的な都市機能の維持・充実を図り、くらしやすさを支える拠点を形成します。

④産業・物流拠点・・・市内各所

●様々な産業の集積や新たな産業立地の動き、新幹線・港湾・高速道路の結節点となっている交通利便性などの優位性を活かして、地区の特性にあわせた多様な産業・物流の拠点を形成します。

循環型産業拠点	総合静脈物流拠点港（リサイクルポート）、エコタウンなどの先行的な取り組みを引き続き進めていくことで、循環型産業の活性化を支える拠点を形成します。
物流拠点	恵まれた交通環境を活かし、多様な産業の活力を支える物流拠点を形成します。
水産業拠点	本市を代表する産業の一つである水産業の基盤強化や、観光産業などへの活用に向けた拠点を形成します。
情報産業拠点	八戸グリーンハイテックランドを中心に、情報産業が集積する拠点を形成します。

⑤観光・交流拠点・・・市内各所

●自然や歴史・文化、食などの魅力ある地域資源それぞれの特性を活用し、新幹線や高速道路等の広域高速交通網も活かしながら、観光交流を促進する拠点を形成します。

⑥学術拠点・・・大学・工業高等専門学校周辺地区

●大学や工業高等専門学校が持つ学術・研究機能との連携により、地域の課題解決や地域産業の高度化などを推進することで、産学官の連携や学術をけん引する拠点を形成します。

⑦水とみどりの拠点・・・市内各所

●大規模な公園や自然資源などのそれぞれの特性を活かしながら、市内外から人々が集い、交流する拠点を形成します。

集い、にぎわう拠点	広域の中心都市における都市機能のひとつとして、市内外から人々が集い、にぎわう拠点を形成します。
訪れ、憩う拠点	自然的環境や歴史環境など、時間をかけて培ってきた八戸らしい既存資源を維持・保全するとともに、市内外の人々がやすらぎ・交流する拠点を形成します。

(3)ネットワーク

市内各所と拠点、拠点と拠点を結び、広域や全国・世界へとつながる、産業や交流、市民のくらしを支えるネットワークを形成します。

①交通ネットワーク

●様々な産業や交流、市民のくらしを支えるとともに、都市内外の連携を強化する交通ネットワークを構築します。

公共交通ネットワーク	鉄道・路線バスなどが連携して相互に補完することで、市民の生活に不可欠な基本的な移動手段を確保するとともに、都市の活力や魅力を支える公共交通ネットワークを構築します。
道路ネットワーク	市民の快適なくらしや、活力ある産業活動、災害時の緊急活動などを支える道路ネットワークを構築します。

②水とみどりのネットワーク

●八戸らしい空間を形成している海岸線や河川沿いの空間をつないだ、市内をめぐる水とみどりのネットワークを構築します。

6-4 将来都市構造図

